

+++++

年頭にあたって（金澤会長のご挨拶）

+++++

年頭にあたって

会長 金澤 一郎

明けましておめでとうございます。平成 19 年という新しい年が、日本学術会議にとって有意義な年であることを心から願って、一言ご挨拶申し上げます。

日本学術会議が生まれ変わってから、早くも 1 年 3 か月が過ぎました。これをヒト（生物学的な人類の意味です）の成長になぞらえますと、二足歩行が堂に入ってきた頃に当たります。これは、脳が最も柔らかい時代であって、何でも吸収し、何でも身に付けることができ、輝かしい未来を感じさせる頃です。

そういう目で日本学術会議を眺めて見ますと、安倍総理を始め、関係閣僚のお力添えは強力であります。そればかりか、各府省からもいくつかの諮問や審議依頼を頂くなど、学術会議の潜在力を認める方向が徐々に現れています。

会員・連携会員の科学者や関係学協会の協力によって作成した、イノベーション 25 戦略会議への日本学術会議からの中間的提案が、昨年末の同戦略会議においても大変高く評価されています。本年も昨年以上に、学術会議の真価を發揮できるよう取り組んでまいります。

一方、科学者コミュニティに目を向けますと、昨年は研究における不正行為や研究費の不正使用などによって、科学に対し、社会から疑いの眼差しが向けられていました。このことは、「多くのまっとうな科学者たち」にとって誠に迷惑千万なことです。そして、能力ある科学者たちがそのために元気を無くし、日本の科学のみならず社会全体の活力が著しく低下することを憂えます。日本学術会議は、この問題に対して昨年 10 月に「科学者の行動規範」を策定し、積極的に取り組んでまいりました。本年が、そうした「憂え」を一気に払拭するような、科学者コミュニティにとって輝ける年になることを心から祈り期待しています。

昨年秋には、会員・連携会員全員がそろい、実質的な活動が始まり、本年はさらに飛躍する年です。そうした意味を込めて、会員・連携会員の皆様を始め、協力学術研究団体の関係者の方々に、これからの更なるご協力をお願いいたしましてご挨拶に代えます。

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局（p228@scj.go.jp）まで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>  
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34